

< イベント情報 >

**畠山美由紀、saigenji、モダン今夜が登場
タワーレコード フリーマガジン『musée』企画制作イベント第九弾
12月26日(金) intoxicate_09@SHIBUYA CLUB QUATTRO開催!!
～ クリスマスの後に聴いてみたい音楽～**

タワーレコード株式会社(本社：東京都品川区 / 代表取締役社長：森脇明夫)では、2003年12月26日(金)に、同社フリーマガジン『musée(ミュゼ)』¹の企画制作ライブ・イベント「intoxicate(イントキシケイト)」²の第9弾、“intoxicate_09@SHIBUYA CLUB QUATTRO”を渋谷クラブクアトロ³(ライブ・スペース、クアトロ・パルコ4F・5F / 渋谷)にて開催します。

今回のintoxicateは、前回(10/26開催)に続き、スペシャル・バージョンとして渋谷クラブクアトロにて開催。それぞれ違うタイプの“歌”を聴かせるアーティストをキャスティングし、今年を締めくくるのにふさわしい、個性豊かな歌声でイベントを盛り上げます。

出演アーティストは、男女ユニット“Port of Notes”等のヴォーカリストであり、ソロとしてもその唯一無二の透明感溢れる歌声と圧倒的な存在感を顯す『畠山美由紀』が、小沼ようすけ(g)・栗原努(ds)・中島伸行(key)・松永孝義(b)を演奏陣として迎えたステージを披露。さらに、南米アンデス地方の民族音楽や古今のブラジル音楽など幅広いジャンルを取り入れたパフォーマンスが魅力のギタリスト&ボイスパフォーマー『saigenji』。ヴォーカル、ギター、ベース、ドラムに加え、ピアノ、ツイン・パーカッション、ホーンやヴァイオリンなど、11人編成の大所帯でジャズ、ボサノヴァ、ファンク、歌謡曲など様々な音楽ジャンルを横断して表現。さらに、ヴォーカル・マキの伸びやかに歌い上げつつもどこかに儚さと切なさを忍ばせた歌声が独自の世界を作る『モダン今夜』が登場します。

次回は、2004年2月28日(土) 青山 CAY での開催を予定しています。

1 『musée』(ミュゼ)

1996年創刊。隔月(奇数月20日)刊。現代音楽・クラシックを紹介するフリーマガジンとして出発する。当初から国内では紹介される機会のなかった分野の音楽情報を掲載し、若い評論家、若いリスナーから熱烈的な支持を受け、今日に至る。現在では音楽以外の情報(映画、本、伝統芸能など)に加え、ユニークな連載記事(依孝太郎の“タワーで孝太郎”“四コマの鉄人 人コマゴマ”など)を掲載するなど、単なる情報誌という枠を超えて、読み物として楽しむ読者も多い。音楽を基本テーマとして、様々な話題を取り上げるという編集方針により、世代を超えた読者にアプローチしている。1999年にはECMというレーベルの30周年にあわせて、独自のイベントを企画、話題となりintoxicate開催へと続く。

2 intoxicate(イントキシケイト)

イベントの総称は<intoxicate>イントキシケイトと読み、「...を酔わせる」「...を熱狂させる」という意味を持つ。タワーレコードのフリーマガジン『musée(ミュゼ)』のコンセプトをそのまま具現化し、2001年12月からスタートしたイベント。イベントに登場するアーティストや音楽についても、『musée(ミュゼ)』の編集方針に沿って、ジャンルやカテゴリー、有名無名にとらわれず、様々なキャスティング、セレクトを行なう。このイベントを通して、タワーレコードのユーザーに対し、既存の価値観では捉えにくい視点、既存の価値観では生まれにくい好奇心をかき立てる場を提供することにより、更なる音楽への興味・関心を促す。今後も更に発展させた形で年6回、隔月での開催を予定し、20代後半から40代後半をターゲットに、大胆な企画を行なっていく。

3 渋谷クラブクアトロ

パルコが渋谷に4館目をたちあげた15年前に、スペイン語で“4”を指す“QUATTRO”をそのまま店名にオープン。当初より邦楽・洋楽を問わないブックイングで当時隆盛していたUKギター・バンドをいち早く紹介するかたわら、ブルースやレゲエ、ワールドミュージックといったジャンルレスのラインナップが目立つ。また名古屋、心斎橋、広島にもフランチャイズを持ち、ホールキャパに育っていった国内アーティストによる不定期なクアトロ・ツアーなども行われている。

イベント詳細

名 称 : intoxicate_09@SHIBUYA CLUB QUATTRO
日 時 : 2003 年 12 月 26 日 (金)
18 : 00 / オープン 19 : 00 / スタート
場 所 : 渋谷クラブクアトロ
(東京都渋谷区宇田川町32-13 クアトロ・パルコ4F・5F)

出演アーティスト : ・ 畠山美由紀

・ saigenji

・ モダン今夜

上記アーティストのプロフィールは別紙 3 ページ目をご参照下さい。

チケット : 前売 : ¥3,300 (税込) 当日 : ¥3,800 (税込) <1ドリンク付き>
2003年11月22日(土)より下記店舗およびプレイガイドにて発売。

- ・ 渋谷クラブクアトロ (03-3477-8750)
- ・ net-flyer (<http://www.net-flyer.com/>)
- ・ イープラス (<http://eee.eplus.co.jp/>)
- ・ チケットぴあ (03-5237-9999 ・ Pコード : 159-409)
- ・ ローソンチケット (03-5537-9999 ・ Lコード : 33268)
- ・ タワーレコード渋谷店
- ・ タワーレコード新宿店



イベント・ビジュアル

先行予約受付: 11/15(土)~11/17(月)クアトロ・ホームページ(<http://www.net-flyer.com/>)

お問合せ : クラブクアトロ 03-3477-8750 (<http://www.net-flyer.com/>)

企画・制作 : タワーレコード株式会社 ミュゼ編集部

協 賛 : エプソン販売株式会社 / 株式会社コルグ / パール楽器製造株式会社 / ヤマハ株式会社 /
株式会社ユナイテッドアローズ

協 力 : 株式会社パルコ

『musée (ミュゼ)』特設サイト : <http://musee.tower.jp/>

お問い合わせ

タワーレコード(株)マーケティング本部 PRコミュニケーション 木田暁子 伊早坂恵美 真野剛彦

TEL : 03-3496-5009 FAX : 03-3496-5022

E-mail : press@tower.co.jp <http://www.towerrecords.co.jp/>

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-21-1 日本生命渋谷ビル9F

別紙：アーティスト プロフィール artist profile

畠山美由紀

4歳から歌いはじめ、20歳過ぎから作詞・作曲を行う。男女ユニット“Port of Notes”や10人編成のダンスホール楽団“Double Famous”のヴォーカリストとして活躍するなか、'01年9月12日、シングル『輝く月が照らす夜』で東芝EMIよりソロ・デビュー。唯一無二の透明感溢れる歌声と圧倒的な存在感は、音楽シーンの中で確固たる地位を築いている。ボリスの《見つめていたい》やジョアン・ジルベルトの《O Grande Amor》等、洋邦の名曲を再構築したカバーアルバム『Fragile』を昨年9月に、今年8月6日には、ソロ・セカンドアルバム『WILD AND GENTLE』をリリース。ソロとしては、MISIA、平井堅、キリンジなどのサウンド・プロデューサー 冨田恵一のソロプロジェクト“冨田ラボ”や、THE ROLLING STONES来日公演記念トリビュートアルバムなどにも参加。その他、カバンブランド“SAZABY”や、セレクトショップ“UNITED ARROWS”とのコラボレーションなども行い、音楽だけでなく多方面でも活躍。

www.chorddiary.com

「WILD AND GENTLE」/畠山美由紀 [東芝EMI BFCA-84004]

saigenji

Vocal/guitar/cavaquinho/Bamboo Flute、etc。9才の時にケーナを始め、南米アンデス地方の民族音楽や古今のブラジル音楽など幅広いジャンルを消化し、独自のアプローチで演ずるギタリスト&ボイスパフォーマー。また南米各地に伝わる民族楽器も幅広く弾きこなす。ブラジル音楽というカテゴリーには収まりきらない、その圧倒的とも言えるパフォーマンスは見た者全てをトリコにする魅力に満ちあふれている。

共演者に、グラシエラ・スサーナ、ディアマンテスのアルベルト城間、DJ MURO、アン・サリ -、Asa Festoon、Orange Pecoeなど。レコーディング参加に小柳ゆき、Misia、IdeMariko、DJ Muro、Tyler、Moomin、Shakkazombie、小西康陽、DJ Wataraiなど。

www.happiness-records.com

「La puerta」/saigenji [HAPPINESS RECORDS HRCD-020]

モダン今夜

ヴォーカル・マキが大学在学中に結成したバンドを母体に、2002年秋より都内ライブハウスで本格的に活動し始める。ヴォーカル、ギター、ベース、ドラムに加え、ピアノ、ツイン・パーカッション、ホーンやヴァイオリンなど、11人編成の大所帯で、迫力と厚みのある演奏を展開する。ジャズ、ボサノヴァ、ファンク、歌謡曲など、様々な音楽ジャンルを横断して表現されることによって、そのサウンドは広がりを生みだし、ヴォーカル・マキの伸びやかに歌い上げつつも、どこかに儚さと切なさを忍ばせる歌声によって、それは更なる深みと繊細さを備えてゆく。彼女の歌うストレートな歌詞は、人間の不器用さやアンバランスさに対して向けられた優しい眼差しであり、メロディと共に多くの人々に人恋しさと郷愁感を募らせる。オモチャ箱を開けたようなトキメキとにぎやかさ、そして壊れかけた人形のような儚さと寂しさという相容れない感情が独特に絡み合いながら「うた」を表現し、モダン今夜という世界を作りだしている。

www.modern-conya.com

「赤い夜の足音」/モダン今夜 [MOTEL BLUE MBRD-004]